

# I. 研究報告

## 【資料調査部】

### 1. 長崎原爆被爆老人と非被爆老人の健康度及び満足度の比較

#### 1. はじめに

原爆投下後、45年が過ぎ被爆者はだんだんと高齢化しており、被爆者の健康管理を考える上で被爆者の疾病、生活環境及び意識状況を把握することが必要である。原爆被爆老人の生活実態および健康に関する調査を実施し、その結果を解析した。

#### 2. 対象および方法

長崎市在住の65才以上の高齢者52,302名から1,500名を無作為抽出した。回収数は1,329名（回収率88.6%）であった。そのうち、典型的な被爆者老人問題を解析するために男性の70-79才（被爆者手帳を保持している者93名、非被爆者166名）についてのみ、健康状態の意識と日常生活の満足度を解析した。統計処理には統計プログラムパッケージBMDPを使用した。また、 $\chi^2$  検定で有意差を判定した。

#### 3. 結果および考察

##### 1) 健康状態の意識

健康状態の意識の違いを図1に示した。健康状態意識は「大変健康」、「まあまあ健康」、「あまり健康でない」の3段階である。非被爆者の方がより多く「大変健康」と回答した。被爆者は被爆したことにより、健康状態を心配していることをうかがわせる。

##### 2) 日常生活の満足度

日常生活の満足度を図2に示した。日常生活の満足度は「満足」、「まあ満足」、「やや不満」、「不満」の4段階である。被爆者の方が多く「満足」と回答した。

満足感と関連するものは、健康状態、対人関係、趣味の有無、経済状態などが考えられる<sup>1,2)</sup>。7項目の日常生活の楽しみを集団的なものと個人的なものに分類して図3に示した。個人的な楽しみとは「テレビ・ラジオ」、「新聞・読書」であり、集団的な楽しみとは「子・孫の訪問」、「家族団らん」、「友人つきあい」、「親戚づきあい」、「クラブ」である。被爆者は集団的な楽しみが多く、非被爆者は個人的な楽しみが多かった。集団的な楽しみの「親戚づきあい」や「友人つきあい」は経済的背景が必要となる。一方、個人的楽しみの「テレビ・ラジオ」、「新聞・読書」は比較的経済的背景はそれ程重要ではない。被爆者は健康管理手当を受給している者が多く、比較的経済面が安定していることによると推測される。

#### 4. まとめ

男性70才代の被爆者と非被爆者の健康状態意識および日常生活の満足度を比較した。被爆者より非被爆者の方が大変健康であると意識する者が多かった。また、被爆者の方が日常生活の満足度は高く、個人的な楽しみより、集団的な楽しみを持っていた。

[本研究は、第32回原子爆弾後障害研究会  
(平成3年6月2日、広島市)において発表した。]

文 献

- 1) 藤田利治, 大塚俊男, 谷口幸一: 老人の主観的幸福感とその関連要因. 社会老年医学 29: 75-85, 1989.
- 2) 古谷野亘: 主観的幸福感の測定と要因分析 —尺度の選択が要因分析におよぼす影響について—. 社会老年学 20: 59-64, 1984.

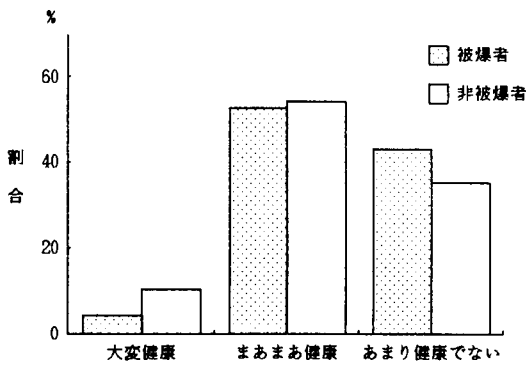


図1. 健康状態の意識の分布

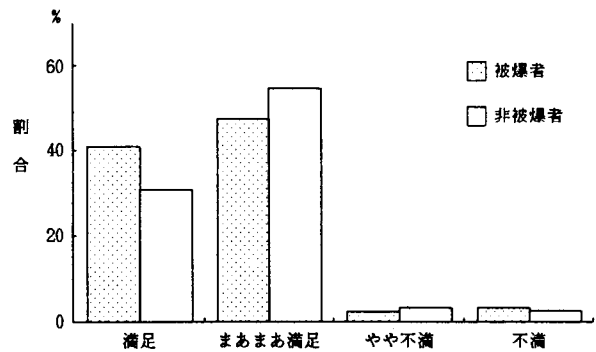
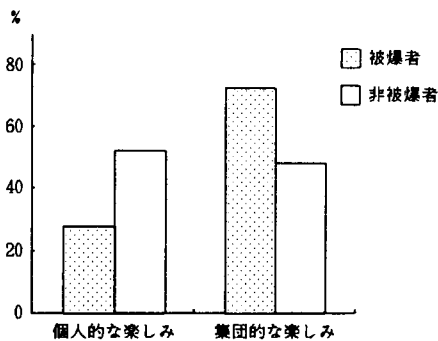


図2. 日常生活の満足度の分布



個人: テレビ, 新聞  
 集団: 訪問, 団らん, 友人, 親せき, クラブ, サークル

図3. 日常生活の個人的な楽しみと集団的な楽しみの割合